

## 杉浦先生のこと

高綱 忠司

私の会との関わりは平成7年に遡る。過去を振り返って、故・杉浦堂之先生には一方ならずお世話になりご指導いただいた。大先輩との出会いは現在でも感謝している。

平成7年11月3日、この日は「深層心理西日本研究会」のフォローアップ研究会に初参加した。先生から豊橋でカウンセリングルームを持ち、セミナーも随時開いている・・・等のお話を伺い、機関誌「こだま」をいただいた。「カウンセリング」の勉強をしていた時期でもあり大いに参考となった。

夏期セミナーの参加を勧められたが、当時は医療関係の複数の団体のお役を担っており時期的に都合が付かない状態であった。それでも、平成11年には「心理教育セミナー」（伊勢）に初参加し、しかも講師まで仰せ付きり恐縮するばかりであった。しかも、2泊3日の宿泊施設では幸運にも先生と一緒させていただいた。

先生は目を患われ、途上一緒する機会もあったが、いつも明るくお元気であった。

当時、所属していたカウンセリングの学会では「古典的な方法」が全盛であり、学んできたことをお話しすると、「クライアントの満足度は？」と問われ、効果を疑問視していることを話された。以来カウンセリングに対する認識が大きく変化した。

また、先生から現役中は美術の教師で「絵画療法」に関心をもっていることや、絵画療法学者の高橋雅春が、従来からの「HTPテスト」を改良した「HTPP」（House-Tree-Person-Person-Test）を考案されたことを説明された。このテストでは、

- ・家→樹木→人物→反対の性別の人物、を順に描くように指示する。
- ・時間制限はないのでゆっくり描くことを指示する。
- ・言語化が困難な心の内面を絵画を通して表現できるので、抑圧された深層心理を解明するのに役立つ。

等の特長があることを詳しくお教えいただき良い勉強となった。

深層心理技法では、これまで「催眠法」「自律訓練法」「イメージ法」「脱感作法」等を主に勉強してきたことに興味を示された。

イメージ法で、奈良の笹田強兵先生が考案された「四季の窓」が使いやすく会でも紹介しているとお話。私も学会で笹田先生のセミナーは何回も受講し面識もあったので話が弾んだ。（その後、笹田先生は故人となられた。）

近年の子どもをめぐる問題の多発についても、取り締まりの強化で解決するような問題ではなく、（深層）心理的な対応が必要なケースが多いこと、ピグマリオン教育観やカウンセリングマインドの普及啓蒙が必要であること等、突っ込んだ内容にまで及んだ。

心理教育セミナーは平成15年まで伊勢で開催され毎回参加したが、偶然にも宿泊施設では毎回先生と一緒させていただいた。

その後、名古屋でのセミナーも毎回講義を担当され、カウンセリングの秘訣、エゴグラム、HTPPの活用、深層心理技法の応用、他、良い勉強となった。

最後までお元気に活動されておられたが、平成20年2月に突然ご逝去された。あらためて先生のご冥福を祈る。